

第401回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 平成21年5月11日(月) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送会議室

3. 委員の出席

○委員総数 9名

○出席委員数 7名

○出席委員の氏名(敬称略・委員は50音順)

委員長 宮本 忠長

委員 大橋 俊夫

委員 小出 貞之

委員 小松 正俊

委員 塚田 芳樹

委員 中條 智子

委員 丸山 仁也

4. 放送事業者側出席者

相崎 由松(代表取締役社長)

堀 眞一(専務取締役・報道局制作局担当)

関 義仁(取締役編成局・番組審議会担当)

松田 敏和(編成局長)

飯 嶋 憲彦(編成局編成部長兼視聴者室長)

山口 慶吾(番組審議会事務局長)

(特別出席)

小松 純也(フジテレビ編成制作局編成部副部長)

5. 議題:フジテレビ制作

「エチカの鏡〜ココロにキクTV」

4月26日(日)午後9:00~9:54放送分

6. 番組の内容

様々な人間の生き方を「エチカ(倫理)の鏡」として、自分を見つめ直すことをテーマにしている番組。審議対象の放送回では、漫画家、西原(さいばら)理恵子さんを取り上げ、家庭崩壊や離婚など多くの不幸に見舞われながらもたくましく生き抜いてきた壮絶な人生をたどった。

7. 審議の概要

- ・西原さんの生き方について、いろいろな形の難局を前向きに解決するという点で共感するところがたくさんあった。
- ・西原さん自身が登場することによって、もともと特異性のある西原さんをさらに浮き彫りにした。
- ・西原さんの壮絶な人生にショックを受けながら最後まで見入った。「事実は小説より奇なり」ということを強く感じた。
- ・壮絶な生き方を描いているが、見終わっても暗い重苦しい気持ちにならなかった。
- ・重い話にも関わらず、最後はほっとするいい作り方、構成になっていた。
- ・「最下位には最下位なりの闘い方がある」など、彼女の前向きな生き方を端的に示す言葉が効果的に使われていた。
- ・西原さんの生き方が特異な事例で、自分の生き方にどうこうということにはならない、レベル感が一緒にならないという感じを受けた。
- ・「三行エチカ」には違和感があった、蛇足ではないかという意見の一方、人間がついやってしまいがちなことにスポットを当てて面白かったという意見があった。